



退官にあたって

| | |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| メタデータ | 言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-07-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 野川, 潔 メールアドレス: 所属: |
| URL | https://hokkyodai.repo.nii.ac.jp/records/9203 |

退官にあたって

野川 潔

昭和31年に本校に赴任して以来、39年の年月が経ちました。私の人生の2分の1近くをこの大学で過ごしたことになると思います。あばら屋に近かった木造平屋の校舎は、それなりの風格を備えていましたが、いまでも健在な当時の玄関前に植えられていたオウシュウクロマツの大樹から、その頃の雰囲気を出し出すことができるだけです。当時の校内では、牛が飼われ、水田も作られて、何やら農業学校の雰囲気が漂っていたものでした。その頃、岩見沢市が行った騒音の調査によれば、水田の蛙の鳴き声が最もうるさかったと言うニュースは、新聞記事にもなりました。笑い話のような本当の話で、学生寮に泊まった他大学の学生が不眠症になったなどの話が伝わったりしたものでした。大正池のほとりでゼミを行う先生も結構いたものでしたが、最近の大正池は、学生の姿もめっきり少なくなったようです。

確かに大学も大学の周辺も、すっかり変わりました。キャンパスと言うにふさわしい環境も整備されてきております。広いローンに加えて、昔は決して無かった広い駐車場は、年々拡張されております。しかしながら、ローンで語らう学生もあまり見掛けず、授業は遅刻が多く、授業が終わると先を争って駐車場から出て行く車の群れを見ていると、なにか知らないが皆一刻も早く学校から遠ざかろうとしているようで、心寒い気持ちになるのは私ひとりでしょうか。クルマ社会と言われて久しいが、あまりに人々は急ぎ過ぎるのではなからうか。こんなことを考えるのも、年を取った証拠なのでしょう。列車に乗っても以前ほど学生の顔を見掛けられないのも、広い駐車場を埋める車の群れを見れば納得がいくというものです。しかし、ここでちょっと考えてみるのも必要なことではないでしょうか。確かに家から学校まで直接つながることは、便利で魅力的なことです。しかし、これは学生にとって能率的なことなのでしょう。地理を専攻する私は、野外調査に車を利用することも多く、実際にはかなりの距離を走ります。我々の仲間では、調査に車を使うときには、他人に運転させるが勝ちとされております。勿論、腹の中でそのように思っているだけで、誰も口には出しません。これは、運転という行為が、非常に精神的な負担が大きいからです。札幌・岩見沢間の距離は決して近くはありません。片道でも1時間強の時間を運転に費やすのは、その影響が他に及ばないとは決して言えないでしょう。ところが他人（運転のプロ）が運転する列車を利用することにより、結構まとまった時間を手に入れることができるのです。読書もよし、居眠りもよし、車窓の眺めから四季を感じとるのもあなたの自由である。行き帰りに神経を酷使するのと、どちらが能率的でしょうか。通勤列車を書斎がわりにしていた先生も結構いたものです。もっとも時々酒場にも変わりましたが、学生とのコミュニケーションに利用していた先生もいたようでした。

最近私は、時間に追い立てられているように感じる事が多くなりました。時間の経つのが非常に早く感じるのです。光陰矢のごとしという言葉の意味が、つくづく感じとれるこのごろです。若いころには決して分からなかったことです。世の中の動きも、益々加速されていっているように思える今日このごろ、世の中の流れから一歩ひいて日常を反省してみる余裕も必要ではないでしょうか。時間という財産に恵まれた学生諸君は、もっと時間をゆったりと消費していてもよいのではなからうかと、私には思えます。

(地理学)